2013年（平成25年）
第65号
（5月1日）

平安月報
The HEIAN monthly report

発　行　所：立正佼成会　京都教会
発行責任者：渉外部長　宮地啓安
編集委員長：渉外広報　植田恭司
〒605-0041　京都市東山区三条蹴上
TEL (075)762-2211
FAX (075)762-2266

みんなでお祝いしたお釈迦さま誕生日　花まつり

４月７日、京都教会において「花まつり」が開催されました。お釈迦様お誕生のお祝いにふさわしく、華やかなコーラスに始まり、奉献の儀、読経供養、稚児讃嘆文奏上、寸劇、演奏などが行なわれました。

佐藤教会長は「スタートを尊ぶ。今日は釈尊の誕生。私たちは毎日がスタート。小さなものに対してありがたいと感じられる私たちになりましょう」と言葉を述べました。

また式典中には新たに少年部に入部する新小学１年生の紹介がありました。１年生になったら頑張ってみたいことを一人ひとりが発表し、その初々しさに法座席からは温かい拍手が送られました。

当日はあいにくの雨模様でしたが、教会内は青壮一般によるお祝いムード一色で大変明るく、楽しく、ありがたい日となりました。式典後、食堂では花見団子と甘茶が振舞われました。

おしらせ　５・１９　こころひとつにフェスティバル　in　青年の日 2013

５月１９日（日）１１時から、京都教会全館を会場に「こころひとつにフェスティバル in 青年の日2013」が開催されます。

この日は、全国の本会の青年たちが世界平和に向けて「社会変革の風をおこそう」と立ち上がり、行動する日としています。今年で４４回目を迎えます。

京都教会では、青年たちを中心に、教会挙げて日本は元より世界中の人たちとの共生と平和の実現に向けて、私たち自身が「こころひとつに」なることを願い、京都教会の館内をフルに活用したフェスティバルが実施されます。

当日は、地下３階で『ステージ・パフォーマンス』『子供向けお楽しみコーナー』『掘り出し物バザー』など、１階と地下１階ではスナック、もち、みたらし団子、ドリンクなどの『模擬店』、その他『姓名鑑定』や『活動紹介展示コーナー』などが予定されています。

時々刻々

４月２３日に、亀岡市で集団登校中の児童らを死傷させた事故発生から一年になりました。事故が起きた時間に合わせ、現場で遺族らが法要を営まれました▼この事故を契機に、通学路を緊急点検して、７万カ所以上で安全対策が必要と分かり、順次安全対策が進められています。また無免許運転の罰則を引き上げられることになります▼通学路を改善することや、罰則を強化することも必要なことでしょう。しかし、それだけで安心安全を確保できるのでしょうか▼法律には反していないと迂回献金を正当化する政治家。捕まらなければいいと速度違反する運転手。悲惨な事件や事故を招く根本は我々一人ひとりの心の中にあるのではないでしょうか▼いまだに心の痛手から立ち直れない亀岡暴走事故の遺族の方々の姿を見て、「心田を耕す」ことの大切さを痛感させられました。

今月のことば　～人を尊重し、自己を省みることを忘れずに～　京都教会長　佐藤益弘

５月には、「子どもの日」を迎えます。また、私どもの教団では毎年５月に、「青年の日」が設けられ、佼成会の青年が中心となり、大きな志をもち、同じ地球に生きるすべての仲間の幸せを願いながら行動する日と定められております。今年で、４４回目を迎えます。京都教会においては、１９日（日）午前１１時から「こころ　ひとつにフェスティバル　ｉｎ　青年の日」の名称のもと、様々な催しを企画しております。是非とも、多くの皆さま方にご来場いただきますよう、心からお待ち申し上げております。

さて、５月は、**「怒ること、叱ること、諭すこと」**というご法話を会長先生から頂きました。冒頭に、「このところ、学校でのいじめや体罰、それに夫婦間の暴力や幼児虐待など、痛ましい事件の報道がつづいています。暴力や暴言、育児放棄や無視などによって、人の身心を傷つけることは許されることではありません」と書かれ、人間関係の大前提として**人を尊重する**ことがなければ、どんな教育も指導も躾も、相手の心には届かないということを教えて頂きました。さらに、「怒るのは論外にしても、人を叱って気持ちのいい人はいませんから、相手と心を通わせるには、**やさしく諭すというあり方がふさわしい**ように思います」とご法話は続きます。何となく、怒ることは勿論のこと、叱るのも止めた方が良いのではないかと思いがちですが、会長先生が体験されたこととして、剣道の師匠が、本気で叱ってくださったことがとてもうれしく、ありがたく、感動を覚えるものであったと、述懐されています。私も小学５年生の頃、家の玄関で母に口答えをして「こんな家、出ていってやる！」と言った瞬間に、母から平手で左のほほを叩かれました。母の眼には涙が溢れていました。それから私は家を飛び出して近くの土手の方へ走って行き、泣きました。しかし、生まれて初めて親に叩いてもらったことで、子を想う母親の真剣な気持ちや、温かい心にふれられたことは、何とも嬉しい気持ちでもありました。会長先生のご法話にありますように、「叱ること、諭すことは、本来、そのように相手を思いやること、**愛情を注ぐ**ことにほかなりません」という一節が、私自身の小さな体験を通して、あらためて身に染みた次第です。

後段の**「怒りのとき、仏を思う」**というご法話では、舎利弗尊者のお話を通して、感情的に怒ったりするときこそ、相手を尊重する気持ちと**自己を省みる**ことを忘れないことが大事であると教えて頂きました。また、仏教徒としては、怒りのとき、仏・菩薩を一心に念じることで、冷静になれるということも説かれてあります。よくよく考えてみますと、私ども立正佼成会では、在家仏教徒として、朝夕にご供養をさせて頂くことを基本信行の一つとして大切にさせて頂いております。この読経の功徳によって、仏さまを思う心が養われ、怒りを静める生活が叶っていると、その有り難さも気づかせて頂きました。そういう意味では、常に仏さまを思う人が、この世の中にたくさん誕生されることを願い、共に仏道を歩んで参りたいと思います。

まとい班　「福知山お城まつり」に参加

４月７日、第 27 回福知山お城まつりのパレードに参加した福知山教会青年部の輪に京都教会青年部も加わり、一緒に『まとい』を振りました。

これまでも共に『まとい』を振って来た両教会の青年部員たち。小雨が降り少々寒い気候の中でしたが、若者らしく熱い心をもって、お互いの交流を深めることができました。

京都・滋賀教会 合同聖壇勉強会

４月 14 日、京都教会法座席において滋賀教会聖壇担当者の方々との合同勉強会が行われました。

京都教会本部聖壇のメンバーが講師となり、本部から学んだ儀式儀礼を伝えました。そのおかげで、５月に本部の聖壇当番を頂いている京都教会の担当者自身がお役の心得を再確認できました。

今回の勉強会は滋賀教会からの要請によって実現したものです。今後も両教会の交流を深め、お互いに学び合う機会を増えることが期待されます。

新宗連京都　平成２５年度総会を開催

４月12日京都普門館において、新宗連京都府協議会の平成 25 年度総会並びに懇談会が開催されました。総会では、新年度の事業計画が承認され、６月６日に環境学習会として「あわじメガソーラー」を見学。10 月２日に「妙道会教団ご聖地（滋賀県）」を訪問することなどが決定しました。また、総会の後の懇談会で各教団の代表者がお互いの絆を深め合うことができました。

ベトナム仏教会ご一行　京都教会へ

４月14日、ベトナム仏教会の約 30 人の尼僧さんたちが京都教会を訪ねられました。本会の国際仏教教会顧問の後藤・元京都教会長の案内で来道されました。

一行は、法座席でご本尊を参拝、昼食に会員手作りのうどんをとられ、普門館で佐藤教会長と対話をしました。

ベトナム仏教会の方は、初めての海外で日本に来ることができてとても喜んでおられ、「日本人の親切さ、思いやりの心」「京都教会の出迎えに感動した」と感謝の思いを述べておられました。

企業経営者のあり方を学ぶ

４月６日、立正佼成会大阪教会において、企業経営者を対象として、近畿支教区「企業経営者セミナー」が開催されました。講師は元京セラオブテック社長の福永正三氏。同氏は、京セラ名誉会長の稲盛和夫氏の京セラフィロソフィという哲学を指針にして、毎月１億円の赤字を出していた会社を、わずか３年で黒字会社へと転換させました。

この経験から「この会社は心が病気なのだ」と気づき「心を治せば、改革ができる」と信じ、１週間操業を止め、社員全員と「自立自活していくためには何をすればいいのか」を心開いて語り合いました。その結果、改革案「福永百箇条」が会社再建の原動力となったと語りました。

中央明社「ふれあいもちつき」

４月 29 日、中央明社は三条会商店街振興組合においてを恒例の「ふれあいもちつき」開催しました。

商店街内には餅つきの音が響き、通行客が足を止められていました。議員懇話会所属の議員も駆け付け、腕を振るわれました。中には飛び入り参加して写真を撮られる等、地元の方々と明るいふれあいが出来ました。

庭野日敬の著書に学ぶ　「リーダーとは」より

****

昔は権利という場合、「権理」という字を使ったと聞いたことがあります。権利というと自分に利益のために主張できる力とか資格とかいう感じがしますが、権理と書くと、道理にかなってこそ主張できる資格、といった意味合いが濃くなります。

憲法１３条には個人の尊重があげられていますが、あくまでも「公共の福祉に反しない限り」という規定があることを忘れてはならないと思うのです。そもそも自由とは「自らによる」ことです。そのよる（依る）べき自分が煩悩むき出しであってはたいへんです。そうした人々による民主主義では、ただ反対のための道具と化してしまいます。衆愚政治に堕しかねません。

****

これは政治の世界だけに限らず、企業や団体といった組織にも通じることでしょう。権利を笠に着て、自己主張を押し通すことは正しいことだと思っている人が多いように思います。はたから見ると、とても不愉快に感じてしまいませんか。庭野開祖の言われるように「権理」と考えられる人が増えれば、もっといい社会になるだろうと想像できるでしょう。

すべての人々が「権利」を主張することから、「権理」として意識するようになるために、まず、リーダー自身から変わっていくことが求められます。個人の利益や組織の利益を優先させるのでなく、理にかなった取り組みをすることが大切だということでしょう。

特に、国民のリーダーたるべき政治家の方々には、選挙に当選するかどうか、党利党略が優先してはいないか、猛省していただき、我々に人としてのあり方の範を示して頂きたいものです。

庭野開祖の宗教観・平和観　「一乗の道」

《この道を》

宗教者にとっていちばん大事なことは「自分は何も知らない人間だということを知る」ことではないでしょうか。自分が何も知らない未熟者だと自覚すると、すべての人、すべてのことが自分に何かを教えてくれているのが見えてくるのです。まさしく、耳を澄ませば「一切声これ仏声」なのです。

言うまでもないことですが、長い人生を振り返れば、そうそう自分の思うようにばかりいくものではありません。それを「どう受取っていくか」ということなのです。粘土のように柔らかなものの性質を可塑性と言いますが、このような性格の人は固定的な観念を持たないので、どんな問題にも柔軟に対応でき、周囲の批判にも耐え、人からの忠告の受容性に富むものです。

この可塑性こそ、法華経で説くところの質直意柔軟、柔和忍辱の心に通じるものでしょう。庭野開祖がこれまでの人生で、幾度かの危機を乗り越えてこられたのは、一つにはこの柔軟な心を失わずにいたからでしょう。

おもしろい話があります。あるとき老子が弟子にむかって、自分の口を大きく開き、「どうだね。見てごらん、まだ歯はあるかね」と尋ねました。弟子は老子の口の中をのぞいて、「いいえ、歯はもうございません」と答えました。すると老子は、「どうだね、舌はあるかね」と、尋ねます。「ございます」と弟子が答えると、老子が「これでわかったかね」と弟子に言ったというのです。つまり、固いものはなくなりやすいが柔らかなものは残るのだ、と老子は弟子に教えたかったのだという解説を読んだことがありました。

この話しは、法華経が説く「柔和忍辱の衣を着る」ことの大切さを教えているのと同じように思えます。庭野開祖にも失敗もあれば苦い体験も色々ありました。しかし、失敗しないことが偉いことだとは考えず、むしろ、失敗したときにどういう気持ちで再び立ち上がったか、それが大事ではないだろうかと思ったのでしょう。プロのゴルファーが「勝った試合から学ぶことはないが、負けた試合からは多くのことが学べる」と言っているのも同じことです。

庭野開祖のこうした姿勢にこそ、宗教者としての生き方が示されています。法華経に説かれた教えを素直に受け入れ、その指し示す道ひとすじに進むという人生を歩んできたのです。

（次回に続く）

「一食運動」５カ年推進計画を発表

一食（いちじき）平和基金運営委員会は「一食を捧げる運動」のさらなる推進に向けた今年次からの中期５カ年計画を発表しました。

同計画はで『共感心・布施心を起こす』を目標に、すべての会員が同運動の実践に努めていくことが示されています。加えて、青年部は部員に実践を呼びかけるとともに「一食ユニセフ募金」を通した市民への啓発に重点を置くことが盛り込まれました。

wakachiai
sharing meals for friends

これを受けて、京都教会では平和活動推進委員会内に一食運動推進担当者を設け、運動の精神や浄財の活用法を伝え、一層の推進を図ってまいります。

また、一食運動の精神に基づく『わかちあいの心』をテーマにした新たなロゴマークも発表されました。円形状になった重なり合う二つのハートは「お互いのハートを共有する」こと、「手をとり合いつながる様子」を表現しています。

◆一食を捧げる運動とは

朝昼晩の食事のうち一食を抜いて、空腹を体で感じ、その悲しみ、苦しみに心をよせます。

苦しむ人々の救われを願い、祈りを込めて食事代を献金します。

無理なく実践できるように「私の実践日（マイスキップデー）」を設け、日々心がけます。

渉外部からのお知らせ

●５月の主要行事予定

５月１日	朔日参り・布薩の日	９：00～
５月11日	比叡山春季仏教講座	10：00～
５月11日	かめおかこころ塾	13：00～
５月14日	奈良県宗教フォーラム	12：30～
５月15日	布薩の日	９：00～
５月18日	庭野平和賞シンポジウム（京都国際交流会館）	13：00～
５月19日	こころひとつにフェスティバル	11：00～

●メッセージ

このところ世界各地で地震が発生し、そのたび建物が崩壊、死傷者が多数出ています。同じマグニチュードの地震が日本で発生しても建物の崩壊による死者は出ませんし、崩壊そのものが有り得ません。また地震発生の数秒前に緊急地震速報が国民にメールされるシステムが整備されているのは世界最先端でしょう。先達の努力に感謝すると共に、私たちは動物本来の危険予知力を鈍らせてはいけませんね。